

2012(平成24)年度
法務研究科 法務専攻(法科大学院) A日程 入学試験問題

「 憲 法 」

〈60分〉

(注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。)

以下の事例を読んで、後の問いに答えなさい。

「A大学(国立大学法人)は、一般入試から理学部物理学科の定員に『女性枠』を設けることにした。女性の理工系離れが進むなか、優秀な女性の人材を育成しないのは将来の日本の社会にとって損失であること、女性ならではの視点と感性を導入して教育や研究に多様性をもたらしたいとの意図があった。定員10名のうち、6名を女性枠として確保するつもりでいる。」

【設問1】この事案に含まれている憲法上の論点について、論じなさい。

【設問2】国際交流を促進するために、定員10名のうち6名を「外国人枠」とした場合には、どのように考えたらよいのか、論じなさい。

2012(平成24)年度
法務研究科 法務専攻(法科大学院)A日程 入学試験問題

「 刑 法 」

〈60分〉

(注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。)

甲は、夫と離婚後に、乙と交際するようになり、甲が借りていたマンションで、乙及び離婚した夫との間に生まれた娘Vと3人で生活していた。ある日、Vが自宅で倒れたことから、甲は、Vを最寄りのX病院に連れていったが、Vの病状は重篤で、直ちに入院し、半月ほどは点滴を継続し安静にしなければ生命に危険がある旨医師にから告げられた。Vは、そのままX病院に入院し、点滴を施しての安静治療が開始された。

甲は、Vの入院が半月に及ぶことから、その手続や身の回りの準備をするために、その夜、自宅マンションに戻り、乙に上記の事情を伝えたが、乙は、「冗談はやめろ！X病院なんて、そんな金のかかる病院に半月も入院させる金なんてないぞ！明日にでも退院させて連れて帰ってこい。」などと、甲にくっつくかかった。甲は、当初は、X病院の医師の指示に従わなければと、乙に反対していたが、乙から、「俺との生活はどうなってもいいのか。俺が、もっと金のかからん病院を探してきてやるから、とにかくX病院はやめて、Vを連れて帰ってこい。お前がそうできなければ、もう、俺はお前とは暮らせない。」などと言われ、乙とは別れたくないし、医師の指示に従わないとVには危険だが、乙の言うように、あとで別の医者に連れて行けば、命にかかわるようなことにはならないだろうと考え、翌日、Vが危険だとい医師の反対を押し切って、X病院からVを自宅マンションに連れ帰った。

乙は、いくつかの病院に入院費用を尋ねるなどしたが、思った以上に費用がかかることが分かり、面倒になって、「どうせ、Vはもともと自分にはなつかず、邪魔だったし、このまま死んでも仕方ない。」などと思い、甲に対しては、「今、受け入れてくれそうな病院に頼んで準備してもらっているから」などと適当なことを言って、放置し、甲もその言葉を信じきっていたところ、Vは、マンションに戻って2日め、点滴が中断されたことにより、水分及び栄養の補給不足となり、心不全を起こし死亡した。なお、少なくともマンションに戻った日のうちに適切な医療措置がVに再開されていたならば、Vが死ぬことはなかったであろうことが、合理的な疑いを差し挟まぬ程度確実であった。

甲、乙の罪責について、論じなさい。

2012(平成24)年度
法務研究科 法務専攻(法科大学院) A日程 入学試験問題

「 民 法 」

〈60分〉

(注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。)

AはB骨董品店で壺を買う契約を締結し、Bが手配した運送会社がAの家に壺を配達し、受領時に代金を支払うこととした。翌日、Bは運送会社Cに壺の配達を依頼した。Cが壺を配達するため、トラックでA宅に向かったが、途中でDの運転する乗用車と衝突してしまい、その結果、壺は粉々になった。CD間の自動車事故につき、Cに過失がある場合とない場合とに分けて、AB間の法律関係について論じなさい。

「 民事訴訟法 」

〈60分〉

(注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。)

Xは、Yに商売の資金として5000万円を貸した。返済期が来たので、Xが、5000万円の支払いをYに請求したところ、Yは、もう少しまってくれといったので、XはYの支払いを1ヶ月待つことにした。1ヶ月後、XがYに貸金の支払いを請求したが、Yは支払えないというばかりであった。Yの家屋や土地はすでに銀行の債権のために抵当に入っている。ただ、Yは、Zに対し5000万円の売買債権をもっていることがわかったので、Xは債権者代位権によりYに代位して、Zに対しこの売買債権の支払いを求める訴えを提起した。

- (1) 代位訴訟の係属中に、Yの姉がYのためにXに対する債務を支払ったことが判明した。裁判所は代位訴訟をどのように処理すべきか。
- (2) XY間の貸金債権についての審理方法を説明しなさい。

2012(平成24)年度
法務研究科 法務専攻(法科大学院) A日程 入学試験問題

「 商 法 」

〈60分〉

(注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。)

設問

取締役会設置会社である甲株式会社(以下、甲社という)は、設備投資のための資金を必要としていたことから、取引関係のある乙株式会社(以下、乙社という)と丙株式会社(以下、丙社という)に出資が可能か否か打診した。乙・丙の両社はともにこれまで一度も出資したことはなかったが、今回、新たに発行される株式総数の半数ずつを引き受けることにした。

上記の株式の発行に関して、①甲社は会社法上どのような手続をとらなければならないか、甲社が「公開会社」である場合と「公開会社でない会社」である場合に分けて説明しなさい。また、②上記の株式の発行がかりに法令に違反する場合、これによって不利益を受ける者がとりうる会社法上の救済手段について説明しなさい。